

2010年

11月6日（土曜日） 土地改良の心が実りを結う - 「海部土地改良区解散式」 -

本日、海部土地改良区の解散式典を迎え、これまでの間の京都府当局の多大なご支援とともに、畑中理事長はじめ歴代の理事長、役員、組合員の皆様のご尽力、ご協力に心から深い感謝を申し上げます。

本地域は、従来、水田のおよそ87%が湿田でありましたが、この乾田化を図り農地の汎用化と大型機械体系を確立するため、昭和54年度の調査、58年度から整備が開始され、途中、様々な課題もありましたが、現在まで都合27年、252haに及ぶ本格的な土地改良の事業を完了していただきました。

圃場整備によって大型農業機械による営農が可能になるとともに、平成19年からは新たな農業経営体として「誠農海部株式会社」さんや「甲山営農組合」さんなどの法人、集落営農組織も設立され、作業受委託や団地化による黒大豆栽培が進められました。主要作物は水稻のほか、豆類、黒大豆であり、とりわけ黒大豆については丹後地域の最大産地となるなど、圃場整備を活かした先進的な農業の成果が出てきつつあります。

私は、土地を整備することは人の活動のみならず農業に向かう人の心をも整えるのではないかと思います。土地の整備によって作業の受委託や法人営農の活動を容易にするのはもちろん、農家の皆さんの農業への情熱を促し、また支え、ひいては実りを結う。本年、春先の低温、夏の高温の中、本市の一等米比率は90%近く、東北北陸を含め他産地を大きく上回りました。これは農業にかける農家の皆さんの丹精と努力の賜物であ

りますが、圃場整備進展の背景が結うた実り^ゆという一面でもあるのではないかと。地域の皆さんには引き続きの農地の保全や施設の維持管理にご負担をおかけしますが、行政もできる限りの支援をさせていただきます。